学習意欲を喚起する小学校古典学習

～５年生実践「古典を読んで，『イイね』あなたは共感できるかな，できないかな」より～

湯浅　明菜

本実践では，「枕草子」を，子どもと古典文学との出合いの場として設定した。「古文は何を言っているか分からないから嫌い」といったイメージではなく，「昔の言葉っておもしろい」と感じられるような，古典文学との易しい出合いとなる学習にしようと考え，実践に取り組んだ。子どもにとって自然な学習展開にするために，前単元とつなげた学習展開にすることで，学習意欲の持続を促した。また，子どもが主体的に学ぼうとするには学習の動機づけとなる導入が重要であると考えた。清少納言との出会いにおいては百人一首とデジタル教材を，「枕草子」との出合いにおいては，挿絵を導入で扱った。また，自分が「いいな」と感じることや共感できることについて「イイね」という学級独自の言葉を用いることで，自分と教材，自分と友だちとを比べながら，その根拠について考え，伝えようとする力を育ててきた。

キーワード：単元学習，小学校，古典，枕草子，季節の言葉

１．研究目的

本研究では，子どもの実態を的確に捉え，主体的に学びに向かえるような単元学習づくりを目指し，特に子どもと学習とのつながりに重点を置いた。子どもが「読みたい」「知りたい」「伝えたい」と思えるような教材との出合いや，その意欲を持続させられる学習活動にするよう取り組んだ。

子どもの学習意欲を芽生えさせるためには，導入段階，あるいは，導入前からの取り組みや土台作りが大切である。「登場人物はどんなことをしたのかな」「声に出して読みたい」「書くのが楽しい」「もっと色々な本が読みたい」「友だちと一緒に話し合ってみたい」といった姿が見られるような学習展開を設定する。

2017年度本校５年生における「古典を読んで『イイね』あなたは共感できるかな，できないかな」の実践から考察する。

２．研究方法

子どもの学習意欲を引き出す学習活動とするため，次のような方法で研究を行った。

２．１．「イイね！」を合言葉に～共感を探って～

本単元名は，「古典を読んで『イイね！』あなたは共感できるかな，できないかな」である。「イイね！」というのは本学級（５年A組）で使っている言葉であり，自分が「いいな」と感じることや，共感できることに対して使っている。自分と教材，自分と友達とを比べながら，その根拠について考え，伝えようとする力を育てていきたい。

本時では，「イイね！」を合言葉に，清少納言が言う春，夏，秋，冬の良さに共感できるかできないかを考えることから始める。その中で，歴史的仮名遣い，「やうやう」「をかし」のような古語など，現代文との違いにも気付くことができるのではないかと考えた。また，思わず声に出して読んでみる姿も見られると考えた。そのような“子どもの言葉”をとらえ，古典作品の大きな魅力である言葉やリズム，響きの楽しさへとつなげたいと考えた。

２．２．２つの単元をつないだ学習展開

単元をつなげることで，学習意欲の持続や，次の単元へ入ることが自然な流れでの学習展開となるのではないかと考えた。

そこで，「５Ａ句会　春の句を読もう，詠もう」を第１単元，「古典を読んで，あなたは「イイね」できるかな，できないかな」を第２単元として実践を行った。（図１）

第１単元では，光村図書による国語教科書「季節の言葉１」の学習として，春らしいと感じるものや様子について考え，春から初夏についての俳句を読んだり，詠んだり（自分で作ったり）した。俳句を扱ったのは，自分がいいなと感じる四季の風景を切り取ることをたくさん経験させたいと考えたからである。

春らしいものを挙げた時には，植物，行事，気候など，自分たちの経験を呼び起こしながら言葉を挙げた。

そして，「どうぶつ俳句」や小林一茶の俳句「雪溶けて　村いっぱいの　子どもかな」を読んだ。子どもたちは，自分のもつ春へのイメージと重ねたり，筆者が動物であるという設定や，小林一茶が長野出身であることを根拠にしたりしながら，俳句の中身を予想することを楽しんだ。

（第一単元）
５Ａ句会春の句を読もう，詠もう

時	めあて	主な学習内容
1	句会で遊ぼう	絵本「どうぶつ句会」から春の俳句を読み，句の流れから言葉を予想する。
2	俳句の名人に挑戦！小林一茶の俳句を読もう	「雪とけて　村いっぱいの（子どもかな）」の（　）の部分を予想して，言葉を考える。春の言葉を集める。
3	５Ａ句会！春の俳句を詠もう	春の俳句を詠み，互いに読み合う。

指導目標
・表現の仕方に着目することができる。
・春を表す言葉に興味をもち，使い方に関心をもつことができる。
・感じたことを文に書き表すことができる。

（第二単元）
古典を読んで「イイね！」あなたは共感できるかな，できないかな

1	夏秋冬の「イイね！」を考えよう	夏秋冬でいいと思う事柄を考える。グループで言葉を出し合い，付箋に書き分類し，共感できるもの「イイね！」を見つける。
2	清少納言ってどんな人	百人一首やデジタル教材から清少納言に出会う。
3	「イイね！」を見つけながら「枕草子」を読もう	「枕草子」で清少納言の季節の感じ方を読む。
4	「マイ枕草子」の作者になろう	今まで集めてきた春夏秋冬についての「イイね！」について，文章にする。
5	決定！ベスト・オブ・マイ枕草子	グループで読み合い，グループ賞を選び，それぞれの作品の良い点について話し合う。

指導目標
・表現の仕方に着目することができる。
・春を表す言葉に興味をもち，使い方に関心をもつことができる。
・感じたことを書き表すことができる。

図１　実際の学習過程

さらに，校庭や，学校の近くにある和歌山城へ出て俳句を詠んだ。学習を始めた頃は「難しそう」と創作に対して後ろ向きであった子も，いくつかの俳句を読み，自分で詠み，友だちの俳句を読む経験を重ねることで，和歌山城へ出かける際には「俳句を作るのが楽しみ」と言うまでになっていた。

２．３．導入の工夫による，古典文学との易しい出合い

学習指導要領には，伝統的な言語文化に関する事項として次のように例示されている。

低学年：昔話や神話・伝承
中学年：易しい文語調の短歌や俳句，ことわざや慣用句，故事成語
高学年：親しみやすい古文や漢文，近代以降の文語調の文章，古典について解説した文章

つまり，５年生の教科書に掲載されている古文は，中学，高校と続く「古典」で学習する古典文学の入り口であるとも言える。

「枕草子」は，約1000年前，平安時代中期に，清少納言によって書かれた随筆である。清少納言が見聞きしたことや感動したこと，考え方や感想などを，形式や日付にしばられず，当時の普通の言葉で書き留めたものである。「巻」などのはっきりとした切れ目がなく全体がつながっているが，形式や内容から，300あまりの章段に区切られる。

本実践で扱うのは，一段の「春はあけぼの」である。1000年以上前の人が春夏秋冬をどのように感じていたのかという点に，子どもたちの興味を向けたい。

子どもたちが古典の言葉に興味をもてるようにする。そのために，まずは現代語訳から出合わせる。原文から出合うと「何と言ってるか分からない」という声が挙がる。そうなると，子どもたちが求めるのは現代語訳である。

「枕草子」との易しい出合い方として，導入では絵と原文に出合わせる。原文中の歴史的仮名遣いや古語など，意味の分からないことへの抵抗を少しでもなくすために絵を用いるのである。そして，挿絵と，一部の分かる語を手掛かりに，「枕草子」の原文に触れる。確かめる際に読んでみることも可能である。「こんな風に言うんだ」「なんかおもしろいぞ」「“いいな”って，“をかし”って言ってたんだ」と，言葉の楽しさにより親しみやすくなる。

絵は，「学研まんが日本の古典　まんがで読む　枕草子」の挿絵を用いた。清少納言が描く春夏秋冬の描写が色鮮やかで目を引くものとなっている。

3．授業の実際

第3時「イイねを見つけながら『枕草子』を読もう」

（　）つぶやき，＜＞行動

「春はあけぼの」「夏は夜」「秋は夕暮れ」と各段落初めの一文のカードを貼った。それぞれの言葉から，時間を表しているのではないかと予想するものの，あけぼのという言葉は聞き慣れないため，決めかねていた。

教師：冬は何とくるでしょう。

〈「冬はつとめて」貼る〉

C：冬はつとめて。

C：（え？）

教師：えって言ってる。

ひろ：務めるって会社に行くこと。正月で会社は休むから，務めるんじゃないかな。

教師：言葉一つでいろんなこと考えるんだね。

ゆうた：つとめてって，清少納言さんは，えっと…誰の奥さんだっけ。

C：（天皇）

ゆうた：天皇の奥さんにつとめてた，仕えてたから，冬，正月も天皇に仕えるってことじゃないの。

ひろ：（冬「も」でもいいじゃないの。）

教師：一文字にこだわるっていいね。

だいち：予想は，冬はお昼だと思う。理由は，春はゆうた君が言ってくれたように朝だとおもって，朝や夕暮れがあるから，お昼かな？

C：（一緒。）

教師：時間のことかなって。そう予想していたの。

教師：＜挿絵を貼る＞

C：（部屋から見える）

教師：朝焼けって見たことありますか。

C：（小さい時は見たことあるけど）

T：＜挿絵を貼る＞

教師：これ（夜）は問題ないかな。

C：（こんなのじゃないよ。）

だいち：（でも昔，夜は電灯がなかったから。）

のぶ：昔は街灯っていうか電気はないから，星とかよく見える。

教師：今はこんなのじゃないんだね。

教師：秋は問題ないですか。

＜挿絵を貼る（半分）＞

C：（挿絵を見て，夕陽，山，桜，雪，水という発言が続く。挿絵と季節を考えながら想像を膨らませていく。）

4．授業の考察

「あけぼの」「夕暮れ」「夜」「つとめて」という4つの言葉から，多くの子どもたちは時間のことについて書かれていると予想した。さらに，挿絵を導入で使うことで，子どもの食い付きが良く，イメージが湧きやすかったようである。

その反面，挿絵でイメージをふくらませた後に“読めない本文”が一気に貼られたため，学習意欲が下がった子どもがいた。

「枕草子」で使われている古語，歴史的仮名遣いに興味をもつことができた。子どもと「枕草子」や清少納言との距離は縮まったと感じられた。

本時においては，全体的に意味について話す時間を取りすぎた。音の響きに楽しむことも古文の魅力の一つであり，声に出すことをもっと多く経験させておきたい。子どもが言葉に敏感に反応していたのだが，細かいところまで話しすぎないようにするべきであった。音読に自然につなげる課題が必要である。

授業の後，子どもたちが自分たちで話し合って想像をふくらませ，「やうやう」など言葉の響きによって，自分が「イイね」と思う部分を選んだ。授業では，古典と自分という遠く離れていたように思えるものが，授業で想像をふくらませながら話し合い，自分が共感できる部分はないかと考えた。そのようにすることで，「枕草子」という古典作品を自分に引き寄せて読むことができたのではないだろうか。

図2　「枕草子」の“イイね”と思ったところにシールを貼る

5．成果と課題

単元を終えた際の子どもの感想の一部である。

・昔の人みたいにかいたことがおもしろかったです。また「いとをかし」をたくさんいれるようくふうしました。手くびが少しいたくなりました。
・私はこの「もこゆ草子」を作るとき，清少納言さんみたいに，上手に書けるかなあと思っていたけど，後で読んでみて，けっこういい感じに書けて，少しは満足しています。清少納言さんの枕草子を，私はすごいと思います。なぜなら，私にはできないような表現の仕方をしているからです。 私は，自分が書いた春夏秋冬をうまく書けていると思います。理由は，自分が思っているように書けたからです。

・自分でマイ枕草子を作って，少し作るのがむずかしかったけど，自分ではけっこういい枕草子ができたかなと思います。　グループの子にも，これけっこういいねと言ってもらえたから，こういうふうに作ればいいんだなと思いました。清少納言はこんなにたくさんよく作れたなとびっくりしました。また，もっとつくりたいです。
・夏がとくに風景をひきだせたと思います。すごく春夏秋冬のいいねがいっぱいでてきたので，すごいなと思いました。昔の言葉をいっぱい書きました。
・かいてみて，思った以上に書くのがむずかしかったです。でも，文が出来上がって，見て見ると，思った以上にうまくできていて，すごくうれしかった。 　ほかにも「家での休日」のこととか，「学校のこと」とか，いろいろなことを書いて，家でマイ枕草子だい２だんをつくって，また友だちに見せたいと思いました。

創作に対して「何を書いたらいいか分からない」「むずかしい」「はずかしい」と言って敬遠していた子どもたちが，進んで創作しようとするようになった。見たことを５・７・５音や文章で表現することを楽しむ姿が見られた。自分の心が動いた景色や一瞬を切り取ることの楽しさを味わっていた。書く活動に苦手意識をもつ子が，俳句作りやマイ枕草子づくりには進んで，かつ楽しそうに取り組んだ。身近なこと（季節，校外学習）を題材としたことも，全員が意欲的に取り組むことができた要因の一つであると考えられる。

第１単元と第２単元を設定，関連させ，子どもの意識の流れをつなげ，自然な流れで第２単元に入ることができた。しかし，子どもの意識としては，ずっと同じことをやっている感じもあった。

単元計画段階で，第１単元と第２単元をつなげようとしたため，本実践では，第２単元では「枕草子」のみを扱うよう，学習を展開した。教科書には「平家物語」など他の古典文学作品もいくつか掲載されている。それらの教材については，５年生での学習が古典文学との入口であるととらえていることからも，別の単元として機会を設けて学習した。

図３　那智の滝の前で感じたことを書き留める

図３は，宿泊体験学習で訪れた那智の滝の前で撮影したものである。高さ，水量共に日本一の那智の滝を前にして，その大きさに子どもたちは圧倒されていた。そして，合宿のしおりを開いて感動を書き留めていた。子どもたちが，「マイ枕草子」の作品作りに向けて意欲的に取り組んでいる姿があらわれ，自主的に動いた瞬間である。

今回の学習においては，声に出して読む部分が少なかった。言葉の響きは古典作品の大きな魅力の一つである。自分から進んで古典を声に出してみたくなるような学習についても，今後研究したい。

参考文献

あべ弘士「どうぶつ句会」(2003)学研教育出版

河合敦監修「10分で読める！教科書に出てくる歴史人物物語　古代編」(2011) ＰＨＰ研究所

小林清之介「まんがで学習　やさしくてよくわかる俳句の作り方」(1993)あかね書房

世羅博昭編著「6年間の国語能力表を生かした国語科の授業づくり」(2005)日本標準

世羅博昭「国語科授業構築の原理と方法」野地潤家，倉沢栄吉『朝倉国語教育講座〈5〉授業と学力評価』(2004)朝倉書店

髙木まさき監修「光村の提示型デジタル教材シリーズ　音読・暗唱・読み聞かせ　わくわく古典教室小学校高学年用[古文・漢文編]」(2009) 光村図書

中島和歌子監修「学研まんが　日本の古典　まんがで読む　枕草子」(2015) 学研プラス

渡辺春美「小学校国語科　教室熱中！『伝統的な言語文化』の言語活動アイデアＢＯＯＫ」(2012) 明治図書